

会議議事録

会議名	2021年度第2回看護分野教育課程編成委員会
開催日時	2022年2月8日(火) 15:00~17:00
場所	Zoom開催
出席者 (敬称略)	<p>① 企業等委員：大沼扶久子(公益社団法人東京都看護協会西部地区理事)、小林映子(社会医療法人河北医療財団河北総合病院看護部長)(計2名)</p> <p>② 本校委員：橋本正樹(校長)、伊東由美(看護課学科長)、岡本隆行(看護科教員)、渡邊明子(看護科教員)、前野宣(事務局次長)(計5名)</p> <p>③ 事務局：安里良美(計1名)</p> <p style="text-align: right;">(合計8名)</p>
欠席者	なし
配付資料	<p>① 事前送付：□資料1：2021年度第1回看護分野教育課程編成委員会議事録 資料2：前回委員会以降の主な経過報告 資料3：授業計画表(1・2月合体集約版) 資料4：看護科アンケート2021 資料5：授業過程評価スケール看護実習用(2021年度) 資料6：実習アンケート調査結果報告 資料7：看護師養成所の運営に関する指導ガイドライン 資料8：看護科教育課程 資料9：看護科教育課程 学年目標 資料10：看護の基本概念 各分野の考え方・科目設定理由</p>
委員長	伊東学科長
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>橋本校長より、新型コロナウイルスの感染拡大については、第6波となる感染者の急速な増加により予断を許さない状況が続いている。</p> <p>本校の教育活動としては、1月後半からの授業は急遽原則オンラインに組み替えたが、その前までは適宜オンライン授業の日を組み込みながら原則対面授業を実施した。</p> <p>3月に卒業する2年制学科の学生たちは、コロナ禍の中で満足のいく学校生活が送れなかったことを残念に思っている。今後も新型コロナウイルスと共存しなければならない状況下で医療機関、福祉施設等に就職する学生たちには、感染防止の最新の知識を持って、それぞれの職場において職業人として自信を持って仕事に臨んでほしいと願っている。</p> <p>今後もしばらくは判断の難しい教育上の問題も発生することと思うが、委員の皆様には、看護分野の仕事の現在と将来に関する専門家の視点からの貴重なご意見と、本校看護科の教育やカリキュラム等へのご提言をいただきたい、との挨拶が行われた。</p> <p>2. 前回委員会議事録の確認(資料1)</p> <p>委員長より前回議事録(案)について諮り、追加、修正がないことが確認された。</p> <p>3. 前回委員会以降の主な経過報告(資料2)(説明者：伊東学科長)</p> <p>資料2に基づき説明が行われ、確認、了承された。</p>

4. 2021年度の活動報告

①2021年度授業（オンライン授業）の状況について（岡本）（資料3）

②2021年度実習アンケート結果について（渡邊）（資料4・5・6）

各担当より資料3～6に基づき説明が行われ、確認、了承された。説明・質疑・意見の詳細は別紙のとおり。

5. 2022年度の教育活動と学科運営について

①2022年度改正カリキュラムに向けて（伊東）（資料7）

②改正カリキュラムに対する看護科の教育課程（伊東・岡本）（資料8・9・10）

資料7～10に基づき説明が行われ、確認、了承された。説明・質疑・意見の詳細は別紙のとおり。

6. 次回日程、その他

・2022年度第1回委員会

①2022年度の教育活動と学科運営の説明

②2022年度カリキュラムへのご意見伺い 他

次回の日程は、2022年7月12日（火）、15時～17時と決定し、予定している議題は上記①と②であることが確認、了承された。

7. その他

・次年度の委員について

事務局より、次年度の委員について継続することを確認し、了承された。

また、実践的かつ専門的な職業教育の教育課程編成に関する細則の変更箇所を説明し、確認、了承された。

以上

2021 年度第 2 回看護分野教育課程編成委員会の主な討議内容

3. 前回委員会以降の主な経過報告（資料 2）

○伊東学科長より、補足説明があった。

4. 2021 年度の活動報告

①2021 年度授業（オンライン授業）の状況について（資料 3）

○岡本教員より、資料 3 に基づき以下の説明が行われた。

・1 月～2 月の授業計画変更の経緯について：

年明けからの感染拡大により、1 年生は約半分、2、3 年生はほぼ全面的にオンライン対応とした。今回は急なオンラインへの移行にもかかわらず、講師からは快諾を頂けた。年初から可能な範囲で授業日程を前へ詰めるように計画をしたことも功を奏したと評価している。

②2021 年度実習アンケート結果について（資料 4・5・6）

○渡邊教員より、資料 4・5・6 に基づき以下の説明が行われた。

- ・資料 4 がアンケート原本、5 が学生への説明のために付けた注釈、6 が今年度の結果である。
- ・実習は、前期は学内、後期は小児の病棟実習以外は、日数の短縮や人数を制限する形で臨地実習を行うことができた。
- ・成人Ⅱの前期・後期比較では、Ⅵの【教員、看護師間の指導調整】、Ⅹの【学生一人的環境関係】の部分が後期で高くなっている。他の医療従事者との関わりが学内では難しく、グループ内での時間調整や指導者や教員との調整は、臨地実習でこそ多く学べることが見てとれる。
- ・Ⅲの【学生、患者関係】は、模擬患者さんを使用した領域では学内でも高い数値を示した。
- ・日数を制限して臨地に行くことができた老年Ⅰの実習については、昨年度と今年度を比較して大きな変化はなかった。

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
<p>実習アンケートはオリジナルのものか。「授業過程評価スケール」との関係性を教えてほしい。</p>	<p>舟島なをみ先生、杉森みど里先生の『質の高い自己点検・評価の現実 看護学・看護評価論』から抜粋して、実習評価のスケールとして用いている。他校との比較に関する情報はない。</p>
<p>臨地実習が行われなかったところは評価が低いと考察されていたが、病院側では次年度移行も院内のフェーズに合わせて臨地実習の受入れ状況が変わってくることを考えられる。その際の対策や連携方法を考えているか。</p>	<p>今年度の実習の振り返りをしている。学生にとっては生身の患者さんを通して様々な経験をすることが大きな学びになる。実習期間や回数が少ない中でどういう学びをしていくかを考えて、見直しをしていきたい。</p>
	<p>小児は後期に何回か Zoom で指導者に参加をいただき、学生にとっては看護観などの学び</p>

	につながった。
--	---------

5. 2022年の教育活動と学科運営について

①2022年度改正カリキュラムに向けて（資料7）

○伊東学科長より、資料7に基づき以下の説明が行われた。

- ・2022年度にカリキュラムが変わり、看護師養成所の運営に関する指導ガイドラインが厚生労働省から示されている。それに基づき本校でも来年4月から始まるカリキュラムに向けて準備をしている。

②改正カリキュラムに関する看護科の教育課程

○伊東学科長より、資料8に基づき以下の説明が行われた。

- ・改正前と改正後を対照して載せてある。
- ・改正前の看護教育の理念は、前身の河北の教育理念を継続して思いやりを大事にしてきたが、改正カリキュラムを機に本校の教育理念に合わせ、建学の精神である「不偏不羈」に基づくものに変更した。看護の視点だけにとらわれず、広い視野で物事を考えられる調和の取れた人材の育成をしていきたい。言葉は変わるが、教育に対する思いは変わらない。
- ・教育目的には、「広い視野を持ち、地域・社会に貢献できる」という言葉を入れた。
- ・教育目標は、資料7の「看護師教育の基本的な考え方、留意点」に照らして、7項目を掲げた。
- ・「卒業生像」は「ディプロマポリシー」に変え、教育目標に合わせて6つのディプロマを掲げた。

○岡本教員より、資料9に基づき、学年到達目標について以下の説明が行われた。

- ・看護科の教育目標と連動した形で学年到達目標を変更した。
- ・年次が上がると目標も高まり、卒業時点で教育目標に到達する道筋が示せるように表現を工夫した。
- ・従来は単位として扱わなかった「キャリアデザイン」を科目として組み入れた。

○伊東学科長より、資料10に基づき、教育課程について以下の説明が行われた。

（看護の基本理念）

- ・人間、環境、健康、看護の4つを看護の基本概念とする。
- ・対象者の暮らし、本人や家族の意思を大事にする看護を考えていきたい。

（科目設定の理由）

基礎分野 14 単位：

- ・「人間関係論Ⅰ、Ⅱ」は、これまでの「コミュニケーション論」の時間を倍に増やし、人間関係を構築するためのコミュニケーション能力の育成を意識した。
- ・「情報リテラシー」は、「情報科学」から分けて知識を身につける科目として設定した。

専門基礎分野 22 単位：

- ・なぜそういう症状になるのか、病気がなぜ変化していくのかを意識することができるように、今までの「疾病と治療」を「病態生理と治療」に名前を変えた。
- ・国家試験を意識し、「臨床放射線医学」を追加した。

専門分野 50 単位：

- ・「基礎看護学」の中に、臨床の看護師のような判断ができる能力の育成を目指し、1年生の「臨床看護総論」、2年生の「臨床看護技術」を設定した。
- ・「地域・在宅看護論」で6単位を設定した。多職種との連携、訪問看護など地域で健康を支えることを意識できるような内容になる。

・「看護の統合と実践」の中に、臨床看護の実践Ⅰ、Ⅱ、ⅢとキャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲを設定した。キャリアデザインでは、横断的な科目（科目の垣根を超えて幅広く学べる）となるように、医療事務科や介護福祉科の学生と協働して学ぶことも考えていきたい。

臨地実習 23 単位：

・従来の「成人・看護学実習」、「老年・看護学実習」を「成人・老年看護学実習」として、幅広い対象を学べるような科目立てとした。

・「地域・在宅看護論実習」Ⅰは、1年次の前期、入学して2～3カ月後に出すことになるが、受入先は豊島区の地域包括支援センターやグループホームになる。まず地域の人たちに触れ合った上で、病院にいる方々に接する実習を行うという順序である。

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
<p>考え方はよく分かった。</p> <p>看護教育の理念は、言葉は変わるが、思いやりは残るという考え方に共感する。</p> <p>非常に分かりやすいカリキュラムだと思う。</p> <p>臨地実習を迎える現場として、基礎看護実習や小児、母性は理解できるが、「成人・老年看護学実習」はどのような視点を持って学生の学びにつなげていけばよいのか。</p>	<p>ⅠからⅤまであり、ⅠとⅤは高齢者に関する部分を学ぶ。Ⅱ、Ⅲ、Ⅳは、成人・老年をシャッフルして、年齢別ではなく、急性期、慢性期という捉え方で組み替えている。</p> <p>学校側は発達段階を意識した実習要項を作るが、臨床の看護師は患者の発達段階の特性は無意識のうちに判断し対応できる力がある。学生には看護師の関りが年齢の特性を踏まえた関りであるという意図が分かるようにしめす事が大事だと思う。また、学校側も発達段階の特性を踏まえた学びにつながる様に指導してほしい事を指導者にも伝えていく必要がある。</p>

以上